

(別紙2-1)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月3日

【評価実施概要】

事業所番号	4270700257		
法人名	社会福祉法人 白寿会		
事業所名	平戸荘グループホーム		
所在地	長崎県平戸市紐差町450番地 (電話) 0950-28-1082		
評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	2007年11月20日	評価確定日	2008年1月15日

【情報提供票より】(19年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)13年 11月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算 9.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 2～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円	その他の経費(月額)	3,900+実費 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	-名	要支援2	1名		
年齢	平均 83.7歳	最低	71歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平戸市民病院 愛恵病院 ハート歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、平戸市内の自然豊かな小高い場所に位置し、2階建てではありますが、1階部分の駐車場が地下にあるといった感じになっています。ホーム内は広く開放的で、清潔感があり、きれいな花々が飾られています。前回評価結果を活かした改善活動には積極的に取り組まれており、計画的とは言えませんが改善の痕跡が多々見受けられ、今後にも期待ができます。併設の施設との連携が十分図られており、安全面など様々な場面において協力体制が整っています。見直しが行われたホーム独自の理念からも読み取れるように、ご利用者及びスタッフの笑顔が心地よいホームです。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価結果を踏まえた改善に積極的に取り組まれています。 前回の評価結果を踏まえ理念の見直しのほか、様々な改善が図られています。改善計画を立てた上での計画的な改善にまでは至っていませんが、今後の改善活動にも期待できます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義はスタッフに浸透しています。 自己評価は管理者を含むスタッフ全員で取り組まれ、評価制度の意義がスタッフ全体に浸透しています。改善に向けた姿勢から今後の改善活動にも期待できます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 早急の開催が求められます。 運営推進会議は、現在開催に向けて準備中といった状況です。地域の中でご利用者を支えていくといった考えに基づき、地域との交流や質の向上に向けた有意義な意見交換が行われるよう、早急な開催及び積極的な取り組みが求められます。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族の意見の聴取に努め、運営に反映されています。 意見箱や苦情受付窓口の設置など、ご家族の意見を聴取するよう努められており、ご家族の意見をホームの運営に反映した実績もあります。今後は、運営推進会議を含めた更なる取り組みに期待します。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との交流については今後の課題といえます。 地域の行事などへの参加は見受けられますが、スタッフが地域の方々と協働するような積極的な取り組みには至っておりません。立地的に困難な面もありますが、現在働きかけが行われている自治会への加入などを含めた積極的な取り組みを期待します。

(別紙2-2)

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	元々根付いていたホームの基本的な考えを独自の理念として新に文書化され、実践に向けた取り組みが展開されています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は掲示され、唱和やミーティングを活用した周知が行われています。スタッフにも十分浸透していることがヒアリングやご利用者への接し方で確認できます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や買い物などの際、地域の方との交流を心掛けられています。その他、職場体験学習や見学など小中高生とのかかわりや、ヘルパー実習の受入も確認できます。しかし、地域の方々とホームスタッフの協働など積極的な取り組みは確認できません。	○	自治会に加入できるよう働きかけられている段階とのことで、今後の取り組みに期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果に基づく改善活動が行われています。自己評価についても全スタッフで取り組まれており、評価制度の意義についてもスタッフに浸透しています。しかし、改善への取り組みは計画的なものとは言えません。	○	改善については、課題を明確にした上で改善計画書を作成し優先順位を決めて取り組むなど、計画的な取り組みが必要です。また、スタッフ全体で課題及び計画を共有するためにも、改善計画を明確にし活動することが求められます。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、まだ開催されていません。現在、会議構成メンバーの人選と出席依頼を行っている状況とのことで、近々開催予定とのことです。	○	地域とのかかわりや質の向上などに関する有意義な意見交換が行われるよう、早急に開催されることが求められます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とのかかわりについては、十分な活動が実施できていない状況とのことです。現在、包括支援センターとのかかわりについて前向きに検討中とのことです。	○	毎月、パンフレットや広報誌を届けるなど、常に接触する取り組みから始められては如何でしょうか。運営推進会議を活かした取り組みにも期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご利用者の状況報告は面会時に、状況の変化については電話にて報告、相談が行われているとのことです。また、「四季」（ホーム便り）を新に発刊されています。金銭管理についても3ヵ月に一回報告書を送付されています。	○	面会の回数などは、ご家族の状況により異なりますので、毎月ご利用者の状況をお知らせするお便りなどについて検討されることを推奨します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口や意見箱を設置されており、ご家族の訪問時には意見の聴取を心掛けているとのことです。ご家族の意見にはその都度対応し、解決困難な苦情などは、併設施設と合同の苦情対策委員会にはかり対策が講じられています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームスタッフの人事異動は殆ど無く、異動が生じた場合は、ご利用者及びご家族に配慮した説明が行われているとのことです。また、行事などを通じて併設施設のスタッフとも馴染みの関係が築けるよう心掛けておられるとのことです。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2カ月に1～2回緊急対処法の内部研修が実施されています。外部研修は、パートスタッフを含め均等に機会を与えておられますが、研修終了後の発表会については検討中とのことです。外部講師による研修会も併設施設と合同で実施されていますが、研修計画は作成されていません。	○	現在検討中の研修発表会については是非実現させてください。内部研修についても緊急対処法に限らず実施されることが求められます。また、スタッフ育成の面から、スタッフ一人ひとりの研修履歴等を把握した上での教育計画作成についてご検討下さい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所間のスポーツ大会には参加されていますが、近隣の施設が少ないこともあり交流を通じた質の向上には至っていないとのことです。今後は施設全体としての交流に発展させたいとのことです。	○	グループホーム間の相互見学など積極的な取り組みにより、質の向上やスタッフのスキルアップにつなげる活動もご検討下さい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはご本人やご家族の状況に応じて訪問し、見学も実施されています。入居直後は家族との連絡を密にし、馴染まれるまで相談しながら対応されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは、ご利用者と笑顔で過ごせる関係作りを目指されており、ご利用者からの感謝の言葉やいたわりの言葉により励まされることや料理などについてアドバイス頂くことも多いとのことです。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、しぐさ等も重要な要素と捉えて意向の把握に努められています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で聴取したご利用者やご家族からの情報、スタッフの気付きなどについて担当者会議で検討され、介護計画が策定されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況に応じて3～6ヵ月に一度、介護計画についての評価、見直しが行われています。随時の見直しについては、状態変化時に行われていますが、些細な変更については申し送り帳によりスタッフ間の共有が図られています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者、ご家族等の要望や状況に応じて、理美容院送迎や通院、ふるさと訪問、お墓参りなどの支援が行われています。ホーム内では認知症対応型通所介護も行われています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご利用者等の希望により選定され、受診結果については電話や訪問時の説明により、ご家族と共有されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関する意向については、出来る限り希望に添った対応を心掛けておられ、癌を患われたご利用者対応事例も確認できました。しかし、終末期に関する方針の明確化や早い段階で話し合いについては十分とは言えないようです。	○	事業所として、現状を踏まえた上で方針を明確にし、仕組みを構築する必要があります。また、入居の際及び状況に応じて話し合いを行い、その結果について記録を残すことが必要です。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや対応などご利用者のプライドに対する配慮が見受けられます。個人情報の漏洩防止などへの取り組みもうかがえます。個人情報保護に関する規程類については併設施設と統一されたものが整備されていますが、ホームでの閲覧ができません。	○	個人情報保護に関する規程類は、常にホームスタッフが確認できるよう、ホーム内への設置が求められます。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、声かけを積極的に行いご利用者の意向を踏まえた対応を心掛けてあります。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては、ご利用者の状態に応じて、いろんな場面でスタッフと協働されているとのことです。食事中は、スタッフが同じ食事を同じテーブルで食し、支援が必要なご利用者対応も行われています。また、菜園で取れた野菜も取り入れているとのことです。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能であり、ご利用者の希望に応じて支援されておりますが、入浴支援を介護計画に反映させたケースはあるものの、スタッフ周知後更新されており訪問調査時には確認できませんでした。現在、温泉水（平戸温泉の湯）の利用を検討されています。	○	入浴支援に関する注意事項などを手順書にまとめ新しいスタッフにも周知できるようご検討下さい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花や裁縫、お手玉作りなどご利用者の得意なことに取り組んでいただいたり、農業経験者には菜園の管理をお願いするなど、過去の経験に応じた支援が行われています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者の希望に添った支援を心掛けられており、天候に配慮したうえでの花の採取や野菜の収穫など付き添いや見守りによる支援が行われています。また、車椅子でも自由に敷地内を散歩されています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠されることなく、ご利用者の外出は、癖や傾向を把握し見守りにより対応されています。併設施設の協力による安全面への配慮もうかがえます。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策については、玄関に避難誘導経路を掲示し、ご利用者と共に避難訓練が実施されています。簡易式発電機が準備されたり併設施設での食料品などの備蓄も行われています。課題は地域への協力依頼とのことです。	○	地域との関係構築を図り、協力体制の整備が求められます。また、災害時の携行品の準備など様々な災害を想定した対策もご検討下さい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については、併設施設の栄養士により作成され、バランスなどについて専門家の視点で検討されています。食事や水分摂取量についてもチェックされており、食事量の個別対応にも配慮されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは開放的で全体的に明るく、季節の花やご利用者の写真などが飾られています。ご利用者が、いつでも楽しめるよう書籍やお手玉なども置かれています。食事の準備の時から、食事の匂いが広がり、ご利用者の食欲に刺激を与えているようです。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み品には、特に制限を設けられておらず、ご家族と相談され馴染みのものを持ってきて頂くよう働きかけも行われているとのことです。テレビ、ラジカセ、家具、位牌等の持込が確認できます。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票を添付すること。